

電照栽培用秋ギクおよび夏秋ギクの新品種 「福花3号」、「福花4号」、「福花10号」

花き部

1 背景、目的

キクの用途は葬祭用などの業務需要が中心ですが、一方で家庭消費に対応した花型・花色の多様な品種の育成が求められています。そこで、キクの消費を拡大し産地の活性化を支援するため、本県オリジナルの品種を育成しました。また、夏秋ギクの施設栽培では、7～8月に出荷されている黄色系の優良品種がなく、また夏季の高温により開花遅延や奇形花などが発生し品質が低下するため、高温による奇形花の発生がなく、7～8月の長期間にわたり電照抑制栽培ができる切り花品質が優れる夏秋ギクの黄色品種を育成しました。

2 成果の内容、特徴

- 1)「福花3号」と「福花4号」は、平成14～15年に本場保有の秋ギク系統群500株を集団栽培し、自然交雑により約8,000粒の種子を得ました。翌年、これらの実生株の中から花容・草姿が優れる系統を1次選抜し、17年に電照抑制12月出し栽培で黄色系1系統およびピンク系1系統を選抜し形質が安定していることを確認して育成を完了しました。
- 2)「福花10号」は、平成16年に本場保有の夏秋ギク系統群300株を集団栽培し、集団内の個体間による交雑により約800粒の種子を得ました。17年にこれらの実生株の中から黄色系で花容・草姿が優れる系統の1次選抜を行い、18年に電照抑制7月出しおよび8月出し栽培で形質が安定していることを確認し、育成を終了しました。
- 3)「福花3号」は、花色は「精興の秋」よりもやや薄い「浅黄」ですが、収穫日が3日早く、花弁(舌状花)が管弁で、花径が大きい特徴があります。
- 4)「福花4号」は、花色が桜ピンクで、収穫日が「精興の秋」より5日早く、花径が大きく、花弁数が多いのが特徴です。
- 5)「福花10号」は、花色が濃黄で、無側枝性であり、花茎の伸長性が優れます。消灯から収穫期までの期間は、電照抑制7月及び8月出し栽培で55～56日と安定しており、7～8月出し栽培でも高温による奇形花は発生しません。

3 主要データなど

表1. 「福花3号」および「福花4号」の特性(平成17年)

系統 品種	収穫日 月/日	開花日 月/日	切り花長 cm	葉数	側枝数	重量 g	花色	花径 cm	小花数	
									舌状花	筒状花
福花3号	12/12	12/21	102	42.8	37.6	93.4	浅黄	13.7	278	20.2
福花4号	12/10	12/17	91.5	45.6	36.4	95.4	桜ピンク	13.2	220	66.2
精興の秋	12/15	12/26	102	39.4	18.2	81.4	明黄	12.5	163	145

注) 7月28日～8月7日まで挿し穂冷蔵、8月8日挿し芽、8月22日～9月11日まで苗冷蔵



図1. 「福花3号」



図2. 「福花4号」

表2. 「福花10号」の電照抑制 8月出し栽培における特性(平成18年)

系統 品種	収穫日 月/日	開花日 月/日	消灯から 収穫まで 日	切り花長 cm	葉数	側枝数	重量 g	花色	花径 cm	小花数		眞生花の 発生率 %
										舌状花	筒状花	
福花10号	8/17	8/24	56	129	38.0	5.2	95.8	濃黄	11.2	347	91.6	0
優花(対照)	8/21	8/28	60	108	48.4	5.8	97.2	黄白	11.6	190	0	100

注)1. 4月13日挿し芽、4月28日定植、5月11日摘心、4月13日から6月22日まで電照(深夜4時間)

2. 施設8月出しの黄色品種がないことから「優花」を対照とした



図1. 「福花10号」